

推 奨 映 画 に つ い て

推奨番号 133号

題	名	火火
製	作	「火火」製作委員会
配	給	ゼアリズエンタープライズ
内	容	<p>信楽町に暮らす陶芸家の神山(こうやま)夫婦に破局が訪れた。神山清子(きよこ)は、作風の違いから夫と衝突を繰り返し、夫である学は別の女性とともに清子の元を去る。女手ひとつで長女と長男を育て上げると心に決めた清子は、陶芸家として、長年の夢である独自の古代穴窯による信楽自然釉を成功させようと執念を燃やす。</p> <p>貧しく苦しい日々が続き、何度も失意に打ちひしがれた清子であったが、子ども達の成長や先輩陶芸家の励ましに支えられながら、ついに独自の古代穴窯による信楽自然釉を成功させ、女性陶芸家の先駆者として押しも押されぬ存在となる。</p> <p>月日は流れ、長男賢一は、窯業試験場を卒業し、母と同じ陶芸家の道を歩み始めるが、白血病により突然倒れてしまう。HLAの適合する骨髄移植が生存の唯一の道であったが、血縁者の骨髄は賢一に適合せず、清子は、周囲の協力も得て骨髄提供者探しに奔走する。</p> <p>一方で、一時の小康を得た賢一は、生きた証を残すため天目茶碗に挑戦し、その腕を上げていくが、やがて、病状の悪化から不完全な形での骨髄移植手術を余儀なくされる。手術は成功したが、その幸福も長くは続かず、再発により賢一は命を終える。</p> <p>女性陶芸家の草分けであり、また骨髄バンクの立上げにも尽力した現役陶芸家神山清子の真実の物語である。</p>
推	奨	理由
		<p>この作品は、一人の実在する女性の人生に基づき、母として、また陶芸家として、白血病の息子と共に歩み、共に闘った人生を描写したものであるが、その内容は、生命の尊厳や人間の絆等を描いたものであり、青少年の情操を豊かに育み、また青少年の健全育成に役立つものと認められるため。</p>
上映期間・場所		<p>期間：平成17年3月上旬～</p> <p>場所：広島宝塚会館</p>